

## 『人権フォーラム2024 いのち輝くまち加古川』

第1部 表彰式 人権ポスター、人権マーク、人権標語・キャッチコピー

第2部 講演

「共に生きるとは何か ～難民の声、家族の歴史から考えた多様性～」

講師 安田 菜津紀（やすだ なつき）さん

## 「人権フォーラム2024」に参加して

平岡小学校区

金川 俊英

本年も多くの市民の参加を得て、「人権フォーラム2024」が8月18日（日）、SHOWAグループ市民会館で開催されました。

第1部の表彰式では、市内児童・生徒より応募された人権ポスター、マーク、標語・キャッチコピーの表彰がありました。応募総数24,237作品から選ばれた優秀作品の表彰でした。多くの児童・生徒が人権啓発作品に応募することを通して、人権について考える機会を得たことは大変意義深いと感じました。

第2部はテレビでおなじみの安田菜津紀さんの講演でした。

講演はフォトジャーナリストとして、ご自身が撮影されたウクライナ、パレスチナ、シリアの写真から始まりました。それらの写真を通して、ロシアのウクライナへの侵攻、パレスチナ自治区ガザ地区の状況、さらには、シリアの状況をより印象深く知ることができました。

最大の人権問題と言われる戦争により、人々の平穏な生活が、ある日突然に砕かれていく不条理は、聞いている我々の心に深く突き刺さりました。このような国々から逃れてきた人々を難民として認定することに、日本は積極的ではないという現状にも心が痛みました。

次に、安田さんの家族が体験された外国人差別の話になりました。外国人に向けてのヘイトスピーチにより、自分の出自を隠さざるを得ない人々がいること。ヘイトスピーチを規制する法整備が不十分なことなど、課題がまだまだ多い現実を私たちに話されました。そして、身近な差別を放置することが、身体的暴力を生むことにつながり、その最たる例が、パレスチナ人を人間と思わず、虐殺しているガザ地区の現状であると、熱く語られました。

最後に、「こういう差別が起きている」と知る活動だけでなく、「こういう差別をどう思う？」と周りに問いかける活動の大切さを話され、講演は終了しました。

安田さんの講演会で得られた多くの学びや気づきをこれからの自分の活動に生かしていかなければと思いつつ、会場を後にしました。



【講演をする安田菜津紀さん】

## 人権フォーラム2024 参加者の感想 (アンケートより抜粋)

○知らないことが、まだまだあることを認識しました。人権が踏みにじられる現実があることはニュースを通して何となく感じていましたが、安田さんの語りと写真を通して現実の問題として、捉えることができました。私たちは身近に目にしていないだけで、人権の問題が存在していることに、どのように向き合っていくのかが問われていると思いました。(50代)

○戦争、難民、在日コリアン、ヘイトスピーチなど様々な視点からの人権問題について、写真を示しながら分かりやすく話してくださいました。人が始めた差別は、人が終わらすことができるはずである。その想いを持って、啓発活動に取り組まなければならないと強く思いました。(50代)

○フォトジャーナリストとして活動している安田菜津紀さんの磨かれた感性から寄せられる言葉には説得力があった。この講演がなければ、知ることのなかったであろう世界の現状を知ることができた。(60代)

○ネット社会の現在、文化や人々の交流が世界的に広がっているのに、他国の人々を受け入れることをためらう日本人が多いこと。日本が島国であり、閉鎖的な考えになることが悲しくなり、恥ずかしい思いです。小さな差別の芽を持っていると、どんどん大きな差別になってしまう怖さを感じました。(60代)

○ガザ地区の話では涙が出ました。自分に何ができるのだろうと考える時間だったと思います。私も「知ったことを伝える、広げる」ことをしていきたいと思いました。(40代)

○安田さんのルーツについての話は、とても興味深く、身近に感じることができました。ルーツが安田さんのエネルギーのもとになっているのがよく分かりました。安田さん自身のルーツに基づいての人権や差別の話は、私の心にすんと落ちました。もっと安田さんの話をじっくり聞きたい思いになりました。(60代)

○人間は本当に弱い。弱い故に少しでも自分より弱みを持っている者に対してマウントをとりたがる。何と愚かな生き物だろう。残念ながら、自分もその生き物の一人。知らず知らずのうちに虚栄を張ったり、人を傷つける言葉を吐いたりしているかもしれない。講演を通して、今の自分を振り返る一日になりました。(70代)

### 高校生が司会進行

本年度の『人権フォーラム2024』は、加古川西高等学校放送部5名の生徒が司会進行及び表彰式のアシスタントを務め、運営スタッフとして活躍しました。

「人権を大切にする市民運動」の一環として開催された『人権フォーラム2024』に、若い世代が参画したことで、啓発活動に新たな風を感じることができました。



【司会進行などで活躍した加古川西高生】

## 市推協 町懇研修会

志方東小学校区

玉田 要

7月25日（木）19:00～人権文化センターにおいて、初めての試みとして「町懇研修会」を開催しました。研修内容は町懇の擬似体験でした。

本年度、兵庫県人権啓発協会が制作したDVD『大切なひと』を参加者全員が視聴した後、8つのグループに分かれて、町懇の企画・運営方法（具体的には、人集めをどうするか。市推員は何を話したらいいかなど）について話し合いました。参加者からは、「引継ぎもなく、いきなり市推員になり、町懇開催に苦労している」、「顔も知らない人たちにどうやって集まってもらえばいいのか」など活発に意見が交わされました。

市推員に初めてなった方にとっては、この町懇研修会は経験者から直接話を聞くことができる貴重な機会になったと思います。

### 参加者の感想

○グループでの町懇の進め方の話し合いでは、時間が足りないくらい、皆さんと積極的に話し合いができました。

○他の地域では、町懇開催に向けてどう呼びかけて運営しているか、いろいろな意見を聞くことができた。

○この研修が去年もあればよかったと思います。いただいた資料に町懇開催案内の作成の仕方が添付されていたので、参考になりました。

○来年度は市推員の更新時期にあたるので、新たに市推員になれる方も多くなると思う。このような研修の機会を大切にしてほしい。



【町懇研修会の様子】

## わがまち 町内懇談会

西神吉小学校区

秦 陽一郎

私の町内会（ローレルコート加古川）は、9月15日（日）18時より、集会所にて町内懇談会（町懇）を開催しました。

町懇の内容は、人権啓発DVD『大切なひと』を視聴後、人権アドバイザー（松浦 剛さん）に「大切なひと …同和問題を考える…」と題してお話をいただきました。

### ・・・町内懇談会を終えて・・・

人権アドバイザーの松浦さんから、「人権って何？」「ネットと部落差別」などについて、分かりやすく説明していただき、大変勉強になりました。

特に、私が大事なと感じたことは、「同情

ではなく、共感する心」でした。きっと参加された方々も同じ想いだったと思います。

同じ社会で共に生きる私たち一人一人が、感性と理解を高め、自分の価値観を持って、正しく判断できるよう今後も研修を積み重ねていきたいと思っています。



【町内懇談会の様子】

## 第3回全体研修会

八幡小学校区 菅野 克則

10月10日(木)、15日(火)の二日に分けて、人権文化センターにおいて市推協第3回全体研修会を行いました。『教科書から学ぶ部落の歴史—教科書記述の変化から—』と題して、講師である人権アドバイザーの石原丈知さんからお話を聞きました。

石原さんは、部落差別につながる身分制度などの教科書記述内容が、2001年以降変わってきたことを丁寧に説明してくださいました。私たち世代が学んだ内容と随分変わっていることを知りました。具体的には、部落差別につながる差別意識が平安時代ころには生まれていなかったこと。江戸時代には士農工商という身分制度はなかったこと。差別された人々は厳しい差別を受けながらも、すぐれた技術を使って生活に必要な用具をつくったり、警察や清掃の仕事を担当したりしていたことなどです。

第3回全体研修会に参加して、私自身が初めて知ることもあり、新たな学びを得ることができました。そして、世代を超えて差別のない社会をつくるためには、学び続けることの大切さを痛感しました。

研修会の終わりに、石原さんは、『差別する』の反対は、『差別しない』ことではなく、『その人を大切にすること。尊敬、尊重すること』です」とおっしゃいました。この言葉が私の心に強く残った研修会でした。



【講演をする石原丈知さん】

### 新着 DVD & 書籍の紹介

人権教育・啓発活動に活用していただくために、本年度、新たに購入された DVD と書籍の一部を紹介します。人権文化センターにて貸し出しを行っていますので、ご活用ください。

#### 〔DVD〕

- ◇「新・人権入門」(25分)  
(職場の人権) 2020年制作
- ◇「言葉があるから・・・」(31分)  
(複数課題) 2023年制作
- ◇映像で学ぶジェンダー入門③  
「結婚・家庭におけるジェンダー」(38分)  
(LGBTQ+) 2021年制作
- ◇「めぐみ」(25分)  
(拉致被害) 2008年制作

#### 〔書籍〕

- 「リエゾン  
—子どものこころ診療所—」(14)～(17)  
(講談社) ヨンチャン他 2024年発行
- 「70歳が老化の分かれ道」(詩想社)  
和田 秀樹 2021年発行
- 「まず、ちゃんと聴く」  
(日本能率協会マネジメントセンター)  
桜井 将 2023年発行
- 「まいまいつぶろ 御庭番耳目抄」  
(幻冬舎) 村木 嵐 2024年発行
- 「長い道」(みすず書房)  
宮崎かづゑ 2012年発行
- 「守礼の光が見た琉球」(ボーダー・インク編集部)  
古波蔵 契 2024年発行